

真高寺だより

第15号 平成23年1月1日発行

発行所：真高寺（伊澤孝順住職）

住 所：市原市飯給1143

電 話：0436-96-0058

*発行責任者 根本 貞夫

*編集責任者 木村 孝一



(写真提供：山内憲章氏)



謹 賀 新 年

総代会長 根本 貞 夫

あけましておめでとうございます。どうぞ本年もよろしくお願い申し上げます。

昨年12月初旬に京都の冬紅葉を見ようと誘われて、一泊二日の旅に出かけました。訪れた東福寺や伏見稻荷、そして北野天満宮や金閣寺などでは、まだまだ美しい紅葉を堪能することができました。何気なく参加した私ですが、この旅で二つのことに強い感慨を覚えました。

その一つは、古木にまじってどの寺社も樹齢20年～30年程度の紅葉が多いな—ということ。

いま一つは、一緒に松や杉などの鮮やかな緑があってこそ、初めて美しく映えるものだな—、という思いでした。

一つ目の事柄は、間違いなく計画的に紅葉の植樹がなされた結果であると思います。私たちの養老溪谷でも数年前から盛んにテレビなどで千葉県を代表する紅葉の名所として放映されるようになり、見物客が大型観光バスで沢山来るようになりました。でもこれとても25年ほど前から、市が林道沿いに毎年多くの紅葉を植えてきた結果です。

二つ目の事柄は紅葉だけ植樹してもいけないということです。寺域全体の四季の有り様を踏まえた上で、紅葉や桜や松などを、どこに植えるか考えて行くようにすべきだということです。

今年は是非、皆さんと知恵を出し合って「四季美しい真高寺プロジェクト」に向けてグランドデザインを立案し、その具体的な実現を目指して取り組んで行きたいと思います。皆さんの変わらぬご支援・ご協力をお願い申し上げます。

道元禪師のおことば

人のしぬるのち、さらに生とならず 〈現成公案〉

おことばの意味

私たちはこの世に生まれた時に、死という重荷を背負ってしまった。人が死んでしまったら、二度とこの世を楽しみ、この世に遊ぶことはできない。人間は生まれてから、この世を去るまで、いつでもどこでも、大自然の無意志の偉大な生命力によって、生きることを楽しんでいる。自分の人生を無報酬で支えてくれた大宇宙の偉大なる生命に「ありがとう」と心から合掌したとき、今日の一日が輝く。

今こそ…

住職 伊 澤 孝 順

明けましておめでとうございます。

今年も檀信徒の皆様にとりましては良き年であります事をお祈り申し上げます。

ところで昨年の夏は猛暑で、一年を通じて雨の多い年でした。これも異常気象に依る、地球温暖化が原因と聞いています。

禅語に「知足^{ちそく}」という言葉がありますが、道元禪師の「正法眼蔵^{はちだいにんがく}の八大人覺^{なんだち}」に「汝等比丘^{びく}、若し諸々の苦悩を脱せんと欲せば、当に知足を觀ずべし。知足の法は即ち是れ、富樂安穩^{らくあんのん}の処なり。知足の人は貧^{いへん}しと雖も而も富めり。不知足の者は常に五欲の為^ひに牽かれて、知足の者の為^{れんみん}に憐愍せらる、是れを知足と名づく。」とあります。つまり「知足」とは、足る事を知るとの意味です。

今日温暖化にともない、日常必要とされる食物が多く不作となり、まさに人によっては欲をかいても満たされない、そんな時に少しでも、与えられるもので満足出来ることが、精神面でも我慢すること、耐えることを養う事になるわけで「感謝の心、ありがとう」という心を磨けば地球環境はだんだんと良くなっていくのではないのでしょうか。

第16教区の研修旅行開催さる

二年に一度行われる教区の研修旅行が、一泊二日で11月9日～10日に行われました。真高寺からは、急用で参加できなかった伊澤方丈に代わって終身総代の松本金蔵氏、前総代の木村弥氏、総代の木村稔氏、そして責任総代の木村孝一の四名が参加しました。

大本山総持寺は明治44年11月5日に、大火による全焼を契機に、石川県の能登から鶴見に移されました。御移転当時の貫首、石川禪師は、「能登の大本山は、御開山瑩山禪師さまの開きになった宗門の心の故郷である。できるかぎり元の姿のまま、正しく末永く残さなければいけない。それが御開山さまへの報恩供養だ。鶴見に伽藍を新築するより、まず祖院の伽藍復興に全力を尽くそう。鶴見の總持寺、能登の祖院も歴史と地域の違いはあっても、ともに瑩山禪師の家風を受け継がなければいけない。世界に眼を開いて禅を布教伝道し、脚下を照らして真の僧侶を育てよう」と、心中密かに誓願をたてられたそうです。

今年は御移転百周年の記念の年ですが、厳密には昨年の11月5日からです。こうした意義深い百周年最初の節目の時期に、私たち16教区の研修旅行が計画実施されました。当日、「千葉県の第16教区の皆さんが百周年最初の参拝団です」と紹介され、一同大変に誇らしく思いながら先祖供養の法要を修しました。



山内あれこれ



平成22. 8. 20 寄附
水子供養 50万円
松本長康様

皆さんのご寄進ご奉仕に感謝

平成22. 10. 11
チエ・ソ・10・11
根本良子様
カリー・寄贈
本・子・グ



清水國明作
「絆」

平成22. 10. 11 奉仕
菊の花手入れ

加藤美枝様
金巻いし様
松本和子様

平成22. 11. 14 寄附
10万円 小川郁夫様
四倉慶一様

平成22. 10. 27 寄贈
扁額・建築資材 中山建築 中山悦夫様



平成22. 11. 22 寄贈 山砂
霊園内永安堂に入れる
杉田建材様



平成22. 12. 20 寄贈
墓地跡地碑 1基・位牌立5本
山内石材様



「永安堂」が落慶しました

養老溪谷霊園内にかねてより、後継者がなく、お墓はあるけれど供養が大変な方、事情により仏様を守れない方等の方々に、早く永代供養納骨堂が有ればとの要望がありました。おかげ様でようやく「永安堂」として完成し、開山歴代住職墓地・水子地蔵尊の石塔開眼供養と併せ、昨年12月24日に落慶供養致しました。

「東屋」で花見も

永安堂の前の敷地内に、皆様が、お参りの際の休憩場所として「東屋」を建てました。先々お花見も出来ます。どうぞご利用下さい。



歴住さんをいつも身近に

山の上の開山歴代住職の墓地が、大部荒れはてた為に、33体の水子地蔵の移転跡地に立派に建立することが出来ました。墓石もきれいに洗浄され、これで開山された大巖存高様から歴代の住職さんのお墓を身近にお参り出来ます。



水子地蔵さんも一安心です

真高寺本堂前の水子地蔵の台石がこわれはじめた為に、水子地蔵尊を修復して33体の水子地蔵もその左わきに移し、供養出来るようにしました。



一オ心配です

本堂左隅の裏山の一部が昨年末の大雨で少し崩落しました。幸い崖下の紅葉の木の根元で土砂はストップし、大事には到りませんでした。でも大黒様は「この後もまた同じように崩れたら少し心配です」と話しておりました。



出羽三山石碑が境内に

山門手前の右側路傍に出羽三山碑文の石塔があります。この石碑は前から同じ場所にありましたが、どのようなものか知られてはおりませんでした。今回山門改修時に大変お世話になった、市原市文化財センター所長の田所先生が詳しく調べられました。お話によると、今から230年ほど前の安永7年に、大戸の田邊久左衛門が「十三村行人塚」の石碑として奉納したものということが判明しました。出羽三山講は南総や五井の方では今でも盛んですが、この周辺では見られなくなりました。でも西飯給公民館のある場所には、以前は小さな「行人小屋」が建っていましたので、昔は近郷でも出羽三山参りが盛んに行われていたのです。



窓ガラスを付けます

本堂左手に板敷きの部屋を設け、施食会などの大勢での法要時の予備室として役立てています。でも窓ガラスが入っていないために雨風が入り込み、コンパネの床も傷みが出そうです。そこで、近々にサッシの窓ガラスを入れることとしました。



「波の伊八」展が 水と彫刻の丘で開催

2月5日(土)～3月13日(日)

真高寺にも本堂の龍をはじめ、山門に多くの伊八の作品がありますが、興味深い他の伊八の作品が見られることは何よりです。是非出かけましょう。

市原市を含む中房総の5市4町で設立された「中房総観光推進ネットワーク協議会」が中心となって、「波の伊八と吉田芳夫展」を高滝の「水と彫刻の丘」美術館で開催します。



今年は銀座で豪華ランチです

今年の初詣は1月22日(土)御移転百周年を迎えた大本山総持寺を参拝、そして先祖供養の後、銀座へ回って昼食となります。その後、築地場外市場で買物散策、そして巣鴨の「とげぬき地蔵」で有名な曹洞宗の高岩寺へと回るデラックスな初詣旅です。定員は40名、会費は12,000円、締め切りは1月15日、申込は真高寺まで。



西国札所巡礼に出かけましょう



昨年から計画しておりました西国三十三観音霊場巡拝は、三年計画で実施することといたしました。第一回はゴールデンウィーク後に二泊三日で行います。初日は那智勝浦の1番札所の青岸渡寺、二日目は和歌山の2番札所の紀三井寺、三日目は同じ和歌山の3番札所の粉河寺から、順番に奈良の9番札所の興福寺南円堂までです。

第二回目は三泊四日で、奈良・大津・京都を巡ります。そして三回目は兵庫・天橋立・琵琶湖畔となります。番外のお寺にも回る充実した霊場巡拝です。詳しい日程・諸費用は真高寺にお尋ねください。申し込み締切は、1月22日迄です。

忘れていませんか？

昨年、各家供養位牌の申込を受け付け、ほとんどの檀家の皆さんから申し込みを頂き、写真のように立派に完成し供養をいたしました。しかしながら、その後も「全く知りませんでした」と、申し込みを忘れて見受けられます。現在も2万円で申し込みを受け付けております。



グループで写経・写仏をしませんか

一人で写仏・写経をすることは、一寸勇気が必要です。でも何人かのグループですることは、大いに楽しいことです。西国巡礼に行くにしても、せめて先々のお寺さんに、般若心経を納経出来ればご利益は倍增すること請け合いです。定例開催日に限らず、何人かのグループができたならお寺に御相談下さい。